

## ローマへの旅

14日間にわたる激しい暴風雨の中を漂流した後、やっとのことでパウロ一行が流れ着いた島は、何と、はるか地中海を横切って、もうローマの南、シシリー島のすぐ近くにあるマルタ島であった。それを知ったときのパウロの感慨はどんなに深かったことであろうかと思う。

島の長官プブリウスをはじめ島の人々は、大変親切にパウロたち漂流民を世話してくれた。マルタ島でパウロ一行は冬の3ヶ月を過ごすことになったが、ルカはその期間に起った二つのエピソードを記録している。すなわち、彼がマムシにかまれるが生き残るといふ事件と島の長官ポプリアスの父親の癒しの出来事である(1~10節)。

この二つの事件は迷信深い島の人々の間に一大センセーションを巻き起こした。或る人々はパウロを神様だと叫び出し、また多くの者が癒しを求めてパウロの所に殺到した。その時、病人の癒しのために医者の方ルカも活躍したと思われる。パウロとルカの祈りと愛の奉仕の業が、どのようにマルタ島の人々に対する福音宣教と結びついたかは不明である。しかし、彼らが島の住民に忘れることのできない感銘を残したであろうことは十分考えられる。

三ヶ月経った後、パウロ一行はこの島に冬ごもりしていたアレキサンドリアの船で首都ローマに向けて出帆した。シシリー島のシラクサに寄港して3日滞在した後、レギオンを經由してイタリア本島の最大の港プテオリに到着した。そこにはキリスト者の群れがあり、パウロ一行は彼らの所に7日間滞在し、彼らの歓待に励まされた。

一行はプテオリから陸路を通過してローマに向かった。プテオリからローマまでは180キロ、約一週間の行程である。一行は一日ほど北に進んでカプアに着き、そこから、あの有名なアッピア街道を北西に進んで旅を続けた。

一行がローマまであと70キロの地点にある宿場アピフォルムに到着したとき、彼らは、ローマから彼らを出迎えるために駆けつけた一群のキリスト者に出会い驚いた。その翌日には、更に、次の宿場トレス・タベルネで、同じように彼らを迎えに来てくれた他のキリスト者たちを会見し、パウロの心は勇気づけられ、心から神に感謝した(16節)。

こうして彼らは「ついにローマに到着した」(14節/口語訳)。パウロは皇帝直属の近衛隊の監視下に置かれたが、ある程度の自由が与えられ、訪問客も自由に出入りすることが許された。彼は2年間をこの近衛隊の兵営で過ごすことになるが、その兵営が神の摂理のもとで彼の宣教の拠点となった。

思えば、パウロは長い間ローマを訪れたいと思い、そのために祈り、またローマの信徒たちに手紙を書き、準備してきた。そして今、その計画はまったく予想もしなかった方法で実現したのである。

主イエスの福音は、さまざまの妨げを受けながらも、神の不思議な導きのうちに、主の御心の通り(1:8)、ユダヤからサマリア、そして小アジアからヨーロッパへと拡大して行った。ローマに向かったパウロの困難に満ちた長い旅はこうして終わった。身は獄中にありながらも、パウロは「勇敢に神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教え続けた」という、ローマの獄中での熱烈な伝道の記述をもってルカの「使徒言行録」は終わる(31節/口語訳)。しかし使徒言行録はまだ終わってはいない。パウロの働きは今もなお教会を通して続けられている。